

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	てとりplus		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	児童発達支援 7名 放課後等デイサービス 7名	(回答者数) 児童発達支援 6名 放課後等デイサービス 6名
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 1日		～ 令和 8年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人内の他2事業所との交流活動を実施しており、約30名程度の集団活動を行う機会を設けている。大人数での活動を通して社会性や協調性を育むとともに、児童の特性や状況に応じて小集団に分けた活動を行うなど柔軟な支援が可能となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の特性や関係性を考慮したグループ編成を行っている。 大集団活動の中でも安心して参加できるよう職員配置を調整している。 事業所間で事前に活動内容や安全面について情報共有を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流活動の目的(社会性・協働性の育成など)を明確化する。 活動後の振り返りを行い、より効果的な活動内容につなげる。 交流機会の拡充を図り、児童同士の関係性を深める。
2	利用児童の年齢層が年少から小学4年生までと比較的近く、発達段階の差が大きくないため、児童同士の遊びやコミュニケーションが自然に生まれやすい環境となっている。	<ul style="list-style-type: none"> 年齢や発達段階に応じた活動内容を設定している。 年上児が年下児を手助けする場面を大切に、思いやりや社会性の育成につなげている。 トラブル時には職員が仲介役となることで、関わり方を学ぶ機会としている。 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢交流を活かした協力活動の導入。 小集団活動を取り入れ、コミュニケーション機会を増やす。 児童同士の関係性を観察しながら環境調整を行う。
3	日常的に公園での活動を取り入れており、身体を動かす機会を多く確保している。外遊びを通して体力の向上だけでなく、ルール理解や順番待ち、友だちとの関わりなど社会性の育成にもつながっている。	<ul style="list-style-type: none"> 鬼ごっこやボール遊びなど、協力やルール理解を伴う遊びを取り入れている。 遊具の順番待ちや譲り合いなど社会的ルールを学ぶ機会としている。 児童の体力や特性に応じて活動内容や参加方法を調整している。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動遊びの種類を広げ、体幹や協調運動の発達につなげる。 集団遊びを取り入れ、協力する力や社会性を育む。 安全管理や支援方法について職員間で共有を行い、支援の質の向上を図る。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	図書館利用など地域施設を活用した活動を行っているが、地域との交流活動や地域資源の活用の幅をさらに広げていく余地がある。	<ul style="list-style-type: none"> 日常の活動が公園活動や事業所内活動を中心としている。 地域団体や地域行事との関わりの機会が多くない。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館など公共施設の利用を継続しながら地域資源の活用の幅を広げる。 地域行事や地域イベントへの参加機会を検討する。 地域の関係機関との連携を図る。
2	公園活動を中心とした支援を行っているため、天候や気温の影響により屋外活動が制限される場合がある。	<ul style="list-style-type: none"> 雨天や厳しい気温の際は外遊びが難しい。 屋内活動のバリエーションをさらに充実させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内で行える運動遊びやサーキット運動の内容を充実させる。 ルール遊びや集団遊びなど屋内活動の幅を広げる。 天候に左右されない活動プログラムを検討する。
3	自由遊びと設定遊びを組み合わせた活動を行っているが、活動のねらいや支援意図をより明確に整理し、職員間で共有していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 遊びを中心とした支援のため、活動の目的が明文化されていない場合がある。 職員によって支援の視点や捉え方に差が生じる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自由遊びと設定遊びそれぞれのねらいを整理する。 職員間で支援意図や支援方法を共有する機会を設ける。 事例検討や研修を通して支援の質の向上を図る。